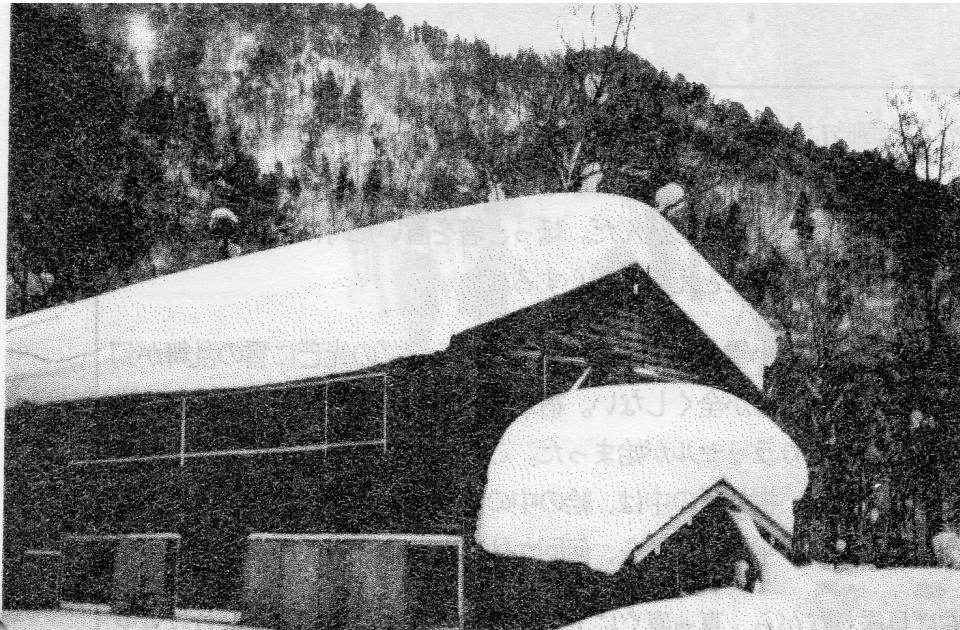


山行報告書

|              |   |                                    |             |
|--------------|---|------------------------------------|-------------|
| 通算山行NO       | NO・170S   | 報告者                                | 加藤 秀子       |
| 年月日          | '99年12月28日(火)～ 年12月30日(木)   |                                    |             |
| 山行名          | '99 冬山合宿【「あさぎり山の会」との合同登山】   |                                    |             |
| 山名           | 北ア・笠ヶ岳(2898m)   | 天候                                 | 晴れ          |
| この山のセールスポイント | 急登の深いラッセルに<br>冬山の厳しさ味わう。  |                                    |             |
| コース及び<br>タイム | /28 裾野13:30～富士IC14:15～富士宮ババ14:30～新穂高宿泊地18:30<br>/2 発4:20～橋6:32～笠新道分岐6:55～1,470m地点(2号堰堤)8:15～C1<br>2,165m地点15:15(テン泊)  |                                    |             |
| 標高差          | △S 1100～T 2165 ≒ 1065 m   | 体力度                                | 1・2・3・4・5・⑥ |
|              | ▼T≒ G≒ ≒ m  | 技術度                                | 1・2・3・4・5・⑥ |
| 走行距離         | 下士狩～新穂高 ≒ 250 km  | 展望度                                | 1・2・3・4・⑥・6 |
| 参加者役割        | CL 後藤 隆徳 52   | 望は遠かった……。                          |             |
|              | 加藤 秀子 51  | 敢えなく敗退したけれど大きくて奥深い魅力的な山グック。再挑戦したい！ |             |
|              | 大根田元男 63  |                                    |             |
|              | 高岡八千代 62  | 夏山とは全く違う。深いラッセルに冬山の厳しさを痛切に感じた。     |             |
|              | 斉藤 富雄 50  | 2000年の冬山で再挑戦。今度は絶対やりとげてみたい。        |             |
| 桜井 聡 55      | 急登のラッセルは初めて。いい経験になった。   |                                    |             |
| 一日目          | <p>富士ICから加藤が乗り込み、富士宮ババ途中であさぎり山の会の斉藤・桜井の両名が乗車。これでメンバー全員が揃い車は一路新穂高へ……。</p> <p>今回は、前年度の塩見岳、前々年度の甲斐駒・仙丈でと、冬山合宿の山行に何故か偶然にも顔を会わせた「あさぎり山の会」の斉藤さんと「何時かは……」の約束の合同登山が実現したものである。話は尽きなくアッという間に今夜の宿泊地・新穂高温泉の民宿「グリーン穂高」に到着。</p> <p>人の良さそうな中年のご夫婦の出迎えを受け、先に盛り沢山の食卓に舌鼓みをうち、その後荷合わせを行った。共同装備を分配し、ザックの重量を計り、多めの者は個人装備から余分な荷物を省き軽量化を図った。その結果、CL・22kg、斉藤・22kg、桜井・19kg、大根田・19kg、加藤・19kg、高岡・16kg。但し、この荷重はピッケル・アイゼン・防寒服・防寒ズボン・ワカンをはずした重さである。総重量はこの重さにプラス2kgとなった。ズシリと腰にくる重さに手応えがあり、久々の大きい山への挑戦に胸が躍る。外は漆黒の天井に満天の星がキラキラと輝き、明日の天気を約束してくれているようだ。温泉にどっぷり浸かり、身体の疲れをほぐす。無色無臭のまったりしたお湯がとても心地良い。明日からの山行に備えて早々に床に着いた。オヤスミナサイ……。</p> |                                    |             |
|              |   |                                    |             |



(上) 奥新穂高  
ワサビ小屋

(中) 2号インテイ  
にて

(下) 秩父沢を登  
る

起床3:00。目が覚めると同時に、宿で用意してくれた食事を無理矢理胃の中へ押し込む。早い食事が辛く『ウッ』と口元まで出かかりそうな御飯を、『食べないと歩けない』と暗示をかけて、脇目も振らずお茶漬けでザブザブ流し込んだ。ほっと箸を置いた時には、皆のお膳は既にカラッポ。朝からよく食べれるもんだとえらく感心する。

身支度を整えて玄関を出ると、外は小雪が舞っていた。ヘッドランプの光芒に雪の乱舞が幻想的で、今から山へ登るんだという感じが全くしない。宿から蒲田川を渡り左俣に入る。林道を暫く歩くと雪がだんだんと深くなりラッセルが始まった。ここは未だ膝下迄だから、それでもいい。息も上がらず順繰り交替だ。樹林帯の中は、絵の中の童話のような風景で、今にも鹿やウサギが跳ねてきそうな雰囲気だ。平面的な道を、何回か休みながら2号堰堤まで辿る。

夏道との分岐の橋を右に見送りながら、真っ直ぐにトレースする。雪は急に深くなりラッセルのトップの私は汗が吹き出した。足を思いっきり上にあげて一步前を出す。簡単なようで、これがなかなか大変なんです。5mも歩くと息がきれて、ゼーゼーハーハー。ズボズボ埋まる雪が腹立たしく、時々例の『クッソッ』がこみ上げてくる。でもこの雪の量ではまだいい。

川沿いから離れ、尾根にとっつき始める頃から、更に雪は深くなり雪との凄まじい格闘が始まった。斜面の傾斜はだんだんきつくなり、ラッセルも思うように行かず、疲れ過ぎて交替時間も早くなる。此れではとても予定地までは行き着かないと、トップはザックを置いてラッセルをする事にした。そして時間を見て交替し、ザックをとりに引き返す。即ち登りを2回する事になった。後ろを振り返ると2号堰堤が未だ、直ぐそこに見えた。

尾根を登りつめた先の森林限界の雪壁にぶちあたる。富士山の胸突き八丁よりも更にきつく正に壁そのものである。トップは加トー。暫くどうして攻めようか考えた。先ず正面の雪をピッケルで崩し、削った壁に次に出す足元を、グローブのゲンコツで叩いて雪を固め、そこへ足を持ち上げる。その作業をひたすら専念する。そうして交替を繰り返し高度を稼ぐが、ラッセルに時間をとられ思うように歩が進まない。皆の体力も限界に近づいた。

風はなく雪山にしては暖かい。東尾根の森林限界を越えると途端に展望が素晴らしい。眼前には明日登る抜戸岳が、右手は秩父沢奥壁と秩父尾根岩峰が雪の中でも鋸歯状の様子がよく分かる。後方には穂高連峰がつつらと聳え、槍ヶ岳がつんと尖っていた。休憩はラッセル後、ザックをとりに戻る時、各自とるような感じでパーティでの一休みはない。ひたすら疲れた身体に鞭打って前進あるのみ。

ようやく今夜のテン泊ができそうな場所をみつけた。でも・・・みると上部は雪が被さり今にも雪崩きそうで不安になる。下は切り立った雪壁で、間違っで一足踏み出すとその儘滑落しそうだ。でも此処しかないという事で決まりだった。テントを張り、簡易トイレを設置し食事の支度。シュンシュンと湯気が上がり鍋がグツグツいい始める頃、皆の顔もやっと疲れがとれ始め、山談義に花が咲く。「あさぎり」との合同登山もいいものだ。山の仲間に境界線はないと嬉しかった。明日のラッセルに備えて早めにシュラフにくるまる。

夫富藤名・会の

# 登山

郵便-83:03 枚取組

①・2・1・3・2・2

②・1・2・3・4・2・0

③・1・2・3・4・2・0



(上) ラッセルは

どこでも続い

ていく

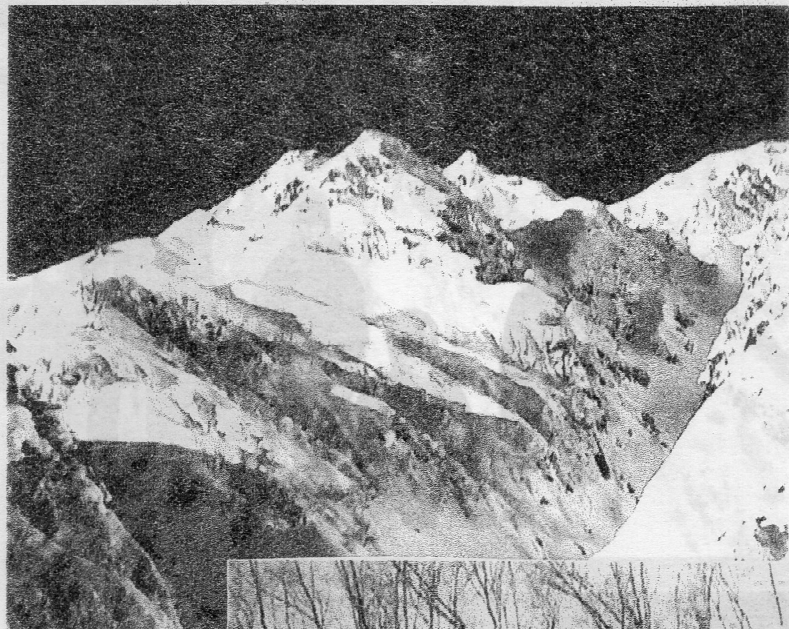
(下) 空身でラッセル

をし再び荷物

を背負い登る

桜井さん

|                   |  |        |               |        |     |             |
|-------------------|--|--------|---------------|--------|-----|-------------|
| 山名                | 笠ヶ岳 (2898m)  | 報告者    | あさぎり山の会・斉藤 富夫 |        |     |             |
| この山のポイント          | 美しい雪稜と槍・穂高の大展望   |        |               |        |     |             |
| 12月30日(木)コース及びタイム | 起床3:30/5:20 ~ 撤退開始7:00~C I 7:25/8:40 ~ 東尾根取り付け9:28~新穂高温泉着12:30/15:45 → 富士宮着19:55   |        |               |        |     |             |
| 標高差               | △  | 2165 m | 2430 m        | 265 m  | 体力度 | 1・2・3・4・5・⑥ |
|                   | ▼  | 2430 m | 1100 m        | 1430 m | 技術度 | 1・2・3・4・5・⑥ |
|                   |  |        |               |        | 展望度 | 1・2・3・4・⑤・6 |
| 二日目               | <p>朝食は、雑炊。身支度を整えて外に出ると、昨夜断続的に強い風が吹いた為、飛ばされてきた雪でテントの周りが一変している。外に置いたザックその他は、全て雪に埋もれ、大根田さんが苦勞して作ったトイレも埋もれてしまい使い物にならない。再度掘り直し、用意してきた携帯トイレに順番に済ませる。携帯トイレは初めての体験だが、使い心地は思った程悪くない。ビニールの入口を縛り、更に2枚のビニール袋で包みテント脇にキープして出発。</p> <p>風はなく暖かい。背後には槍穂がうっすらと闇の中にシルエットで浮かんでいる。相変わらずラッセルの連続。ピッチはまずまずだが、何しろ今日一日で抜戸岳を経て笠ヶ岳をピストンしなければならない。全員が50歳を越えたパーティにはラッセルはきつい。昨日も2号堰堤を越えてから2時間余りずっとラッセルだった。</p> <p>朝日の中に抜戸岳の山頂が見えるが遠い。トレールのないルートでは今日中に登って帰って来るのは無理と判断。全員納得で撤退を決める。高度計は2430mを示している。時間ジャスト7時。力不足を認識してC Iに戻る。テント撤収。キープしておいた携帯トイレを各自ザックにつけて下山開始。下りは早い。昨日苦勞した急登もアッという間に過ぎる6時間近くかかった東尾根の登りも50分で下ってしまった。</p> <p>新穂高温泉の一昨日世話になった民宿で風呂に入り、二日間の健闘に全員で乾杯の後、帰宅の途に着いた。当初の思惑が外れ入山者が極めて少なく、残念ながら山頂を踏む事は叶わなかった。笠ヶ岳は人気山域と思っていたが違うらしい。この山行で出会ったのは、たった3パーティのみ。昨今の山は人気山域には、人が溢れるくらい集まるが他はこうした現状だ。トレールさえあれば何とかなっと思うが致し方ない。</p> <p>来年また再挑戦する事を約束して、今年最後の山行を終えた。裾野の皆さん、お世話になりました。</p> |        |               |        |     |             |
| 晴れ                |  |        |               |        |     |             |



(上) 東尾根取付上部

(中) 奥抜戸沢越しに  
南尾根上部とみ

(下) 何やら楽しい語  
い とみ



上) 東尾根を下る  
中) 下山の日C1に  
て前が 斎藤さん  
右端が 桜井  
さん  
(F) C1から折  
岳をみる

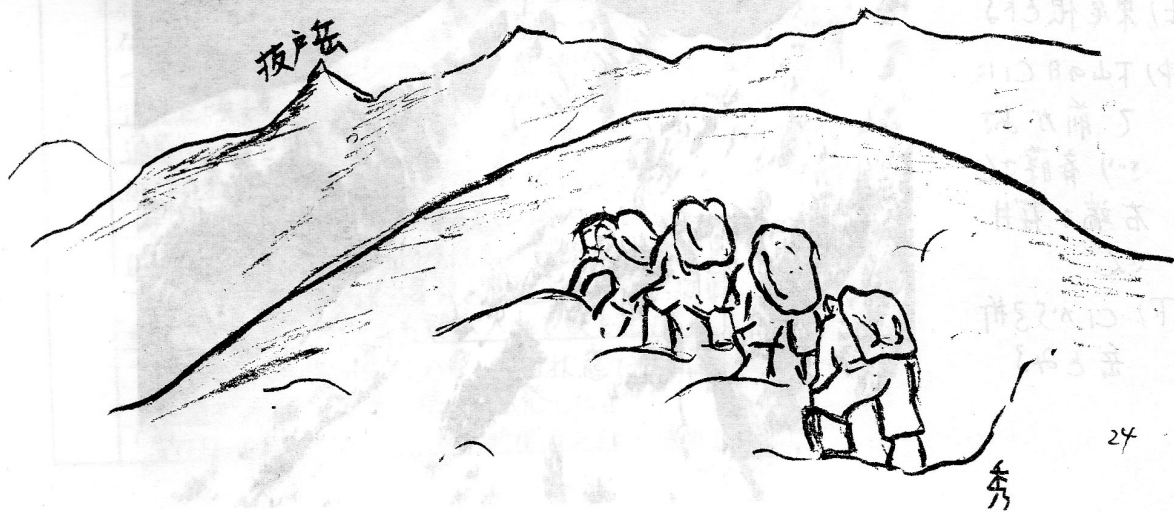
年末の雪山山行で思ったこと

(痛く雪の降雪状況を知りたいところ 今年は何年より多いですよと云われ覚悟はしていた。歩き出して10分くらいでワカンを装着しラッセルになる 笠新道入口までマップ予定の約2.5倍も時間を要した 2号エンティまでは古いトレールがあったがこれより先はトレールはなく深い雪のラッセル 先頭になる人のみがリックをおろしトレースつけ 東尾根末端手前のナダレ跡を通過し 東尾根末端取付にこの地点から板戸岳間平均傾斜約40%強。最初から雪のカベである 20kgを背負ったの登りは滑り降りた感じで踏ん張りかきかぎ大変である 体力が何時まで持続できるか 11時間行動し 2150m地点にヒバーク。2日目テント場からサブザックで行動開始。身体は軽くなり歩きやすくなったがやはりラッセルに時間を要するので考慮のうえ、2450m地点で撤退した)

上記の様な状況の雪山は技術面よりまず1に体力、2に体力ということになる雪のない時にあの山に登れたから雪山でも行けるのではない？ 体力の基礎を作って20kgを背負って1日10時間、3日間は行動できるくらいの体力がほしい。冬山は厳しい寒さと深い積雪、吹雪、どのような条件下でもある程度対応できるだけの体力、平均した力量がなければパーティは組んで行けない 行動中1人でも付いて来ることが出来ない人がいれば行動も制約され、待ってれば体も冷いてしまう 後半になれば誰しもが体力を消耗しており バテた人の荷物を持ってやるのもむずかしくヒバークしなければならなくなる。山も積雪量の多い北アルプス、上信越方面、少ない南アルプス、奥秩父方面とでは相当条件が違うので 楽に入る山に行けばよい。

雪も月中旬以降に降れば締って来ており歩きやすく、又コースはトレースが付いているのでこの時季から歩きやすくなって来る。日帰りでも冬は日照時間が短いので余裕ある計画を立てて行きたい

近くの雪山でも 初心者も簡単に行ける 富士山中腹(御殿場口)、愛鷹山丹沢山塊、山中湖以北など山行できる所が沢山ある 初めから難度の高い山に行くのではなく 体になれる雪山から始めよう



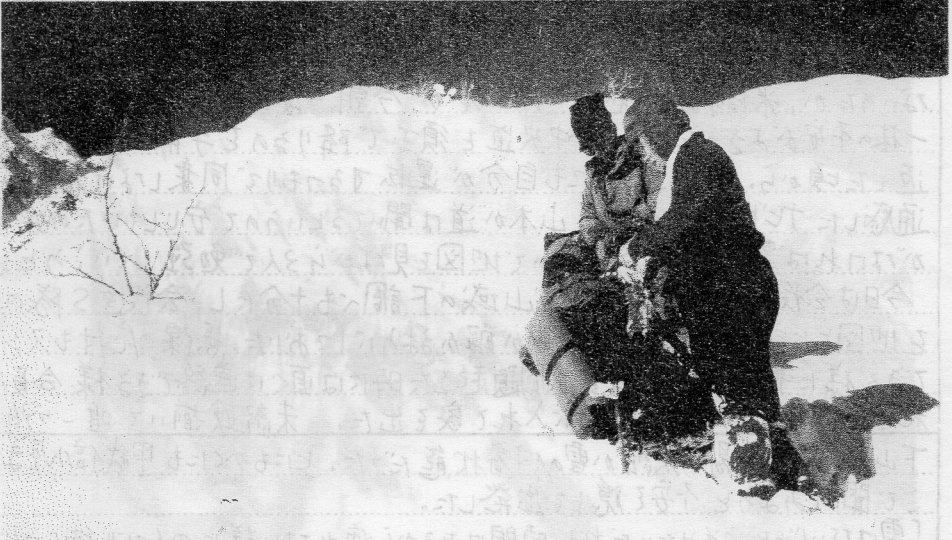


子母  
 (日野)  
 08:30  
 天:  
 風:  
 00:00  
 0  
 0  
 0



山  
 の  
 登  
 り  
 記  
 録  
 目  
 録  
 1  
 2  
 3  
 4  
 5  
 6  
 7  
 8  
 9  
 10

これが  
 ツバサだ



1  
 2  
 3  
 4  
 5  
 6  
 7  
 8  
 9  
 10  
 11  
 12  
 13  
 14  
 15  
 16  
 17  
 18  
 19  
 20  
 21  
 22  
 23  
 24  
 25  
 26  
 27  
 28  
 29  
 30  
 31  
 32  
 33  
 34  
 35  
 36  
 37  
 38  
 39  
 40  
 41  
 42  
 43  
 44  
 45  
 46  
 47  
 48  
 49  
 50